

第 6 回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録

○日 時 平成 23 年 12 月 14 日（金）15：00～17：15

○場 所 津山市役所東庁舎 E 302 会議室

○出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 8 名

委員長 松岡信義（美作大学短期大学部教授）

副委員長 林宏和（津山市 P T A 連合会会長）

委 員 岡田正（津山工業高等専門学校教授（副校長））小坂田昌平（津山市体育協会会長）、可児通宏（くらしき作陽大学非常勤講師及び津山市文化財保護委員）、國藤義隆（自営業役員）、福田邦夫（津山朝日新聞社代表取締役社長）、橋本真弓（一般公募）、八木美佐子（津山市文化連盟会長）

・検討委員会オブザーバー 2 名

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 13 名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

① 全体を通してのご意見

（事務局説明）

- ・ 第 1 章に関するグラフや数値は参考資料として第 4 章の後に掲載する。
- ・ 第 3 章について、施策の方向性は文章表現に、主な取組は箇条書き、名詞止にし、【重点取組】は表記を 1～2 事業とするよう修正した。

（委員から）

- ・ 2 章の冒頭部分が以前に比べて短くなっている。津山の歴史、文化が基盤となって以後につながっていくので、これに関する記述は必要だと思う。
- ・ 文章表現の中に、読んでいて違和感のある言い回しがある。もう少し分かりやすい表現があるように思う。
- ・ 学力向上等に対する今後の施策の方向性はでているので、それをどこまでやりきるか、スピード感をもってやってほしい。
- ・ 情報教育について、様々な分野で総合的に実施する必要がある。
- ・ 道徳教育について、家庭や地域での教育の重要性が挙げられ、今後の取組についての考察が必要である。

- ・ 学力向上等に対応するには、小中連携も重要であるが、中学校ブロック同士の横の連携を図り切磋琢磨することも重要である。
- ・ 文化財の保護、特に民俗文化財を保護や記録をする等を検討すべきである。また、身近に触れられる、学べる文化財である地元の文化財の周知を図ることで、文化財保護の意識づけとなると思われる。
- ・ スポーツを通して礼節の心を育むことを、健全育成を兼ねてやっていこうとしている。それには、地域での指導者育成と共にリーダー不在の傾向の改善が必要に思う。
- ・ 施策について実施できるもの、またある程度具体的な取組を挙げて欲しい。
- ・ 文化事業の充実について、文化選奨の事業の検討ができないか。
- ・ より読みやすくするために、注釈を十分挿入すべきである。
- ・ 施策の方向性をより分かりやすく記載するために、現状を踏まえ、目標を意識して記載したほうがよい。

② その他

・ 今後のスケジュール

(事務局説明)

第 7 回検討委員会を 1 月初旬に開催いただき、1 月中旬に検討委員会から教育委員会へ意見書の提出をいただきたい。教育委員会会議での協議を経て、市民の方へ向けてパブリックコメントの募集を約 1 ヶ月間実施し、その後の協議を経て作成する。また、平成 23 年度 3 月市議会総務文教委員会で報告する。

・ 第 7 回検討委員会の開催について

平成 24 年 1 月 6 日（金）13 時開会

4. その他

なし

5. 閉会